

## 事業名

# 県委託事業 男女共同参画地域防災体制づくり事業

**実施センター** 青森県男女共同参画センター

施設名 アピオあおもり

青森市中央3丁目17番地1号

Tel. 017-732-1085 Fax. 017-732-1073

E-mail. danjo@apio.pref.aomori.jp

URL. <http://www.apio.pref.aomori.jp/gender2011/index2.html>

指定管理者 ASTAC・G（アスタクグループ）

## センターについて

青森県男女共同参画センターは、平成13年に青森県の男女共同参画推進の拠点施設として開館。青森県子ども家庭支援センターとの複合施設で愛称を「アピオあおもり」と言う。平成18年から指定管理者制度が導入され、民間企業の共同体であるASTAC・G（アスタクグループ）が受託。現在、3期目となっている。

当センターは情報提供、啓発・学習、相談、交流、調査・研究等の事業を体系的・総合的に推進している。また、研修室、ホール、調理実習室などの施設を貸出しているほか、保育室や交流・展示コーナー。そして、2万冊の蔵書を配架している情報ライブラリー、児童図書室、未就学児が保護者と一緒に遊べるプレイルームなどがあり、子ども連れの若い家族から企業人まで老若男女、多様な利用者が集う。

指定管理業務として相談事業、情報事業、情報誌の発行、女性の人材育成を目的とした「あおもりウィメンズアカデミー」、市町村ネットワーク強化のための「地域パートナーセッション」、一日で1700人の来場者があった「パートナーセッション2012・アピオあおもり秋まつり」などがある。また、24年度は男女共同参画講座、出前啓発イベント等、40市町村中、31市町村と連携事業を実施した。

## 事業内容の紹介

本事業は、男女共同参画の視点が反映された避難所づくりを目的に、青森市と被災地でもあるおいらせ町の2か所で実施した。自主防災会や町内会、社会福祉協議会や民生委員、PTA、小さい子どもを抱える母親など、災害時に支援者となったり、要援護者の立場になる可能性の方々も交えて実行委員会を組織し、モデル事業を実施した。

「関連死をなくす」というキーワードから、災害時における男女共同参画の視点の必要性を説き、3回の事前ワークショップで、女性に優しい避難所づくりや体験内容について話し合った。その結果、青森市はアピオあおもりを模擬避難所エリアと防災啓発エリアに分け、400人余りの市民が「誰もが安心できる避難所」を体感した。また、おいらせ町は、町の総合防災訓練と連動して、東日本大震災で避難所になった深沢コミュニティセンターで「関連死防止のための避難所づくり」を実施した。

ふりかえりのワークショップでは、体験を生かし、「男女共同参画の視点に立った避難所空間づくり」や「資機材・物資の確保のポイント」などを話し合い、体験をどのように今後につなげるか話し合った。そして、最後には合同学習会を実施。互いの成果を発表し合った。

## 実施までの経緯

青森県も太平洋沿岸部は被災地であり、4月末まで避難所になった地域もある。被災地の市町村に避難所等の状況をヒアリングしたところ、ペットがいたり、小さな子ども連れの家族は車中泊であったり、更衣室がなく着替えはトイレであったり、炊き出しは地域の婦人会の役割だったりしたことがわかり、避難所等における男女のニーズの違いや男女双方の視点への配慮はほとんどなされていなかったことがわかった。

多くの市町村では避難所運営マニュアルは作成されておらず、住民の意識も行政に頼り切り、自助・共助・公助がうまく機能していなかった。

また、これまでの防災訓練はポンプ操作やイベント的なものが多く、避難所運営訓練等はほとんど実施していなかった。

東日本大震災では避難後の関連死で2000人余りの人が亡くなっている。「非常時だから」という言葉で、劣悪な避難所でも我慢を強いられたり、女性のリーダーがいなかったりしたことにより、男性の視点でのみ運営されていたこともその要因といえる。

以上のことから、発災から3日、4日後、自助・共助で男女共同参画の視点を取り入れた安心できる避難所運営について、住民が主体的に考え、体験することで、その重要性を認識し今後に活かすことを目的として、実施することとした。



寝るスペースの確保



間仕切りの設置

学習プログラムの概要

**「男女共同参画地域防災体制づくり事業」**  
 目的：東日本大震災を契機に、避難所等における男女のニーズの違いなど男女双方の視点への配慮や、男女共同参画の視点を取り入れた防災体制の必要性が再認識されましたが、現実には防災分野における女性の参画は進んでいないため、男女共同参画の視点が反映されにくい状況にありました。このことから、地域における男女共同参画の視点を踏まえた防災体制づくりのためのモデル事業を青森市と被災地のおいらせ町で実施し、防災における男女共同参画の視点の重要性の理解を深め、災害時の行動に結び付くことを目的としました。

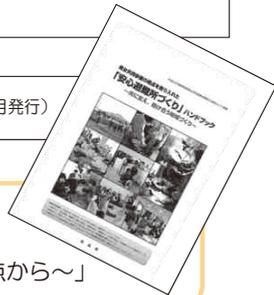
設置 実行委員会の	<b>青森市(19人)</b> 町内会長、自主防災会、PTA、社会福祉協議会、民生委員、DV被害女性の支援者、女性消防団、県防災士会、子育て中の母親、青森県・市行政職員等	<b>おいらせ町(14人)</b> 自主防災会、PTA、社会福祉協議会、地婦連、日赤奉仕団、連合町会、行政職員等
	第1回 WS 6月2日(土) 9:30~12:00	6月1日(金) 18:30~21:00
	第2回 WS 7月2日(月) 18:00~20:30	7月3日(火) 18:00~20:30
	第3回 WS 7月23日(月) 18:00~20:30	7月24日(火) 18:00~20:30

避難所体験及び避難所ワークショップ	●9月8日(土) 13:00~16:00 会場：アピオあおもり 対象：県民一般 「安心できる避難所体験」 	●10月21日(日) 9:00~12:30 会場：深沢コミュニティセンター 対象：深沢住民、実行委員等 「おいらせ町総合防災訓練」 & 「安心できる避難所体験」 
	*ここからの対象は、実行委員、アピオあおもり職員 19:00~21:00 「避難所ワークショップ」「宿泊体験」等 ●9月9日(日) 6:00~9:30 対象：実行委員、アピオあおもり職員 「避難所ワークショップ」 	13:00~14:30 対象：実行委員等 「避難所ワークショップ」 

第4回 WS ■ふりかえり	10月30日(火) 18:00~20:30	10月29日(月) 18:00~20:30
	男女共同参画の視点に立った避難所「空間づくり」「資機材・物資の確保」「運営ルールの検討」及び運営委員会における男女共同参画のポイントについて、体験を基に話し合い。	

男女共同参画の視点を取り入れた「安心避難所づくり」ハンドブックの作成(12月発行)

**合同学習会** 12月8日(日)13:00~15:30  
 ・「平成24年度男女共同参画地域防災体制づくり事業」実施報告等  
 ・講演会「みんなでつくる安心して過ごせる避難所～男女共同参画の視点から～」



## 学習プログラムの具体的構成

\*ワークショップ及び体験活動のコーディネーターは石井布紀子さん（NPO法人さくらネット代表理事）

### 【青森市】会場：アピオあおもり

#### 第1回目＜平成24年6月2日（土）＞

時間	学習内容	ねらい
10:00	主催者あいさつ	
10:00	男女共同参画地域防災体制づくり事業説明 *実行委員会の組織 被災地聞き取り調査結果報告	・事業説明と青森県内の避難所の状況を知ることにより、課題をみつける
10:30	ワークショップ ①自己紹介（自己紹介及び東日本大震災時の自身の役割や行動などについて話した） ②講和 ・東日本大震災における避難所等の実態について ・一次避難所について ・DVD「気仙沼市階上中学校の卒業式」、「全国の訓練事情」を視聴 ・関連死をなくすための組織、考え方、ルールについて、男女共同参画の視点で考えていく	・仲間づくり及び連帯感づくり ・「関連死をなくすために」というキーワードで災害時における男女共同参画の視点の必要性を理解する
12:00	次回ワークショップについて／閉会	

#### 第2回目＜平成24年7月2日（月）＞

時間	学習内容	ねらい
18:00	ワークショップ ①避難所を考える場合に必要な知識と考え方について ②アピオあおもり周辺の防災区分けエリアについて ③グループワーク（1時間半） テーマ「避難所としてのアピオあおもりについて」 1班「地域全体の避難所配分から、アピオあおもりに持たせる機能を考える」 2班「アピオあおもり全館を避難所としてどう活用するか」 3班「イベントホールの活用について」 ④発表・まとめと質疑応答	・避難所に関する知識の習得とあわせて、アピオあおもりを避難所とした場合のシミュレーションを考え、主体的に取り組む機会とする。
20:30	次回ワークショップについて／閉会	

第3回ワークショップ<平成24年7月23日(月)>

時間	学習内容	ねらい
18:00	ワークショップ ①DVD「福祉避難所を作ってみよう」を視聴 ②第2回ワークショップのふりかえり ③避難所ワークショップ内容について(事務局案) ④グループワーク(3グループに分かれる) テーマ:「当日の時間と空間の使い方『屋外・屋内』で考える」 ⑤発表 ⑥避難所ワークショップのスケジュールと全体像について ⑦子ども防災ワークショップについて説明	・第2回目のワークショップの内容を活かし、これまで自分たちが培った知識や強み、社会資源等を活用しながら、避難所体験内容を具体化するとともに、参画意識を高める。
20:30	次回避難所ワークショップについて/閉会	

青森市避難所体験及びワークショップ

- 1.日 時 一般公開 9月8日(土) 13:00~16:00  
 実行委員等対象 9月8日(土) 19:00~9日(日) 9:30
- 2.参加者 一般公開 400人、 実行委員等対象ワークショップ 33人
- 3.内 容  
 <一般公開> 9月8日(土) 13:00~16:00

(1) 模擬避難所エリア

	部屋の名前	ポイント
1 F	避難者の受付	「避難者カード」できめの細かい支援につなげる
	重篤者避難所	関連死をなくそう
	子どもルーム	おかあさんに一人になる時間を提供
	赤ちゃんルーム	安心して授乳もできる
	簡易トイレ体験コーナー	避難所生活を快適に
2 F	避難所	「男女共同参画の視点」で快適な避難所設計
	つながりカフェ	女性専用スペースは避難所には不可欠
	DV被害者シェルター	女性の安全の確保
	乳幼児を抱える母親の避難所	乳幼児を抱える母親の避難所
	男女別更衣室	ルールをつくるのが大切
	ニーズに合わせた物資の配布と配布時の工夫	受け手の立場で考える
	女性専用の洗濯物干し場	安心して下着を交換できる。衛生面の確保

(2) 防災啓発エリア

会場	コーナー	時間
駐車場	起震車	13:00～15:00 (水消火器は16:00まで)
	はしご車	
	タンク車	
	水消火器	
玄関前	炊出し ・だるま芋へっちょこ汁 ・ハイゼックスで作るご飯とパンケーキ	13:00～16:00 (先着順)
エントランス右	AED・心肺蘇生法・救命救急	13:00～16:00
	災害用伝言ダイヤル (伝言171)	
エントランス左	「防災資機材」の展示	
2F	非常食展示及び試食	
	女性に必要な非常持ち出しグッズの展示	
	子ども防災ワークショップ	

ねらい：模擬避難所を設営し、実行委員の提案事項の見える化及び一般参加者に対しては男女共同参画の視点が盛り込まれた避難所を見える化することで理解を深める。また、他機関と連携し実施することで、災害時に活かされるネットワークづくりにつなげる。

<実行委員及びアピオあおもり職員対象> 9月8日(土) 19:00～9日(日) 9:30

時間	学習内容	ねらい
19:00	夕食(メニュー:アルファ米、レトルトカレー) ・想定 停電により発電機を設置し、投光器を使用	
20:00	ワークショップ(グループワーク) テーマ「今日の避難所体験を今後はどう生かすか」 ①みんなのために取り入れたいことを緑の付せんへ記入 ②女性のために取り入れたいことをピンクの付せんへ記入 ③今日はできなかったがこんなことだったらできるのではないかということを黄色の付せんへ記入 ④発表⇒重要度の高いと思われることについて、8項目選び発表	・女性をはじめ多様な人たちが安心して避難所生活ができるためのポイントを、体験を通して具体化する。
21:00	避難所寝てみる体験(宿泊)	
6:00	起床	
6:30	ラジオ体操	

7:00	朝食（メニュー：アルファ米（山菜おこわ）、レトルト食品、缶詰）	
8:00	ワークショップ 昨夜のグループを活かして、1泊2日の体験を踏まえ、①「食べる」「寝る」「元気に過ごす」「体温調整」などを踏まえて追加で付せんに記入していった。	

第4回ワークショップ（ふりかえり）＜平成24年10月30日（火）＞

時間	学習内容	ねらい
18:00	ワークショップ ①おいらせ町の避難所ワークショップの様子について（アピオあおもりとの違い） ②グループワーク （下記4つの中から2つを選んで話し合う） ア）男女共同参画の視点に立つ避難所空間づくりのポイント イ）男女共同参画の視点に立つ資機材・物資の確保のポイント ウ）避難所運営委員会における男女共同参画のポイント エ）避難所運営ルールの検討 ③発表 ④まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難所体験を通して出た意見をまとめ、「市民力・女性の視点と力を活かす防災活動」にまとめる。</li> </ul>
20:30	閉会	

【おいらせ町】会場：おいらせ町役場/深沢コミュニティセンター

第1回ワークショップ＜平成24年6月1日（金）＞

時間	学習内容	ねらい
18:30	主催者あいさつ	
18:35	男女共同参画地域防災体制づくり事業説明 *実行委員会の組織 被災地聞き取り調査結果報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業説明と青森県内の避難所の状況を知ることにより、課題をみつける。</li> </ul>
19:00	ワークショップ ①自己紹介 ・自己紹介及び東日本大震災時の自身の役割や行動などについて話した。 ②講和 ・阪神淡路大震災の経験から見えてきたことや、地域で取り組むときは男女が共同で力を合わせたほうが上手くいく。 ・DVD「防災意識は希望のひかり」を視聴 ・避難所運営と関連死について ・釜石東中学校の軌跡について	<ul style="list-style-type: none"> <li>仲間づくり及び連帯感づくり</li> <li>「関連死をなくすために」というキーワードで災害時における男女共同参画の視点の必要性を理解する</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災地のトイレについて</li> <li>避難所について。レイアウトが大切。ルールを決めることの必要性。</li> </ul> <p>③グループワーク（2グループに分かれる）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの地域で活用できる地域資源をア) 人材・組織、イ) 活動・サービス、ウ) 情報・財源・物資の3項目について出し合い、解決できることや、取り組む課題などについて話をした。</li> </ul> <p>④発表</p>	
21:00	次回ワークショップ説明／閉会	

第2回ワークショップ<平成24年7月3日（火）>

時間	学習内容	ねらい
18:00	<p>ワークショップ</p> <p>①講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害対応のフェーズについて</li> <li>災害時の333の法則</li> <li>避難所が閉じられるまでの期間</li> <li>災害関連死について</li> <li>知恵を出し合うフェーズについて、みんなで考え実行する。</li> <li>阪神・淡路大震災及び東日本大震災時の事例</li> <li>従来の防災訓練は逃げる・助けるが中心</li> <li>今回の取組は減災につながる</li> <li>今後のスケジュール</li> <li>一時避難所について</li> <li>おいらせ町における一時避難所とエリア分けについて</li> </ul> <p>②グループワーク</p> <p>*地域ふりかえりシート2</p> <p>災害時における地域の「弱み」（課題となること）を振り返り、特に優先的に解決することが望ましいこと、取り組めそうな課題について話し合った。</p> <p>ア. どのような人が災害時、要援護者に成り得るか                      イ. 避難するとき時、どういうことで困るか、どういうことが難しいか                      ウ. 避難所で、どういうことで困るか、どういうことが難しいか                      エ. 発表                      オ. まとめと質疑応答</p>	<p>実行委員が一番の関心事である、発災直後の応急・対応について、丁寧に説明したうえで、今回の取組は、「逃げる・助ける」のフェーズの訓練ではなく、関連死を少なくするための避難所をつくるために必要な視点が男女共同参画(女性)の視点であることを理解していただく。</p>
20:30	次回ワークショップについて／閉会	

第3回ワークショップ<平成24年7月24日（火）>

時間	学習内容	ねらい
18:00	<p>ワークショップ</p> <p>①DVD「福祉避難所をつくってみよう」の視聴を通して、避難所ワークショップの全体像をイメージする。</p> <p>②第2回ワークショップのふりかえり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで学習したことを踏まえて、避難所体験の内容を考え、主体性を持って取り組む意識を高める。</li> </ul>

	③グループワーク(2グループに分かれる) 避難所ワークショップ(10/21)の「時間と空間の使い方」について企画・検討 ④発表 ⑤避難所ワークショップ(10/21)のすすめ方について ⑥おいらせ町総合防災訓練について	
20:30	次回避難所ワークショップについて/閉会	

### おいらせ町避難所体験及びワークショップ

会場：おいらせ町深沢コミュニティセンター、深沢保育園

1. 日 時 10月21日(日) 9:00~14:00まで

2. 参加者 おいらせ町自主防災組織からの代表者・実行委員 21人、地域住民80人

時間	学習内容	ねらい
9:00	* 12時30分までの内容の対象者は深沢地域住民とおいらせ町自主防災組織からの代表者・実行委員 おいらせ町総合防災訓練(9時発災、大津波警報・避難)	
9:30	避難→避難者カードの記入	
10:30	発災3日後の避難所づくり体験 ①避難者の把握(性別・年代・要援護者など) ②快適な避難所にするために「避難所運営委員会」を設置 ③組織化と役割分担を行うために「情報管理」「物資調達」「応援救護」「安全衛生」の班長を決める。各班の役割について説明 ④限りある物資の使用方法、分配を決める際の優先順位について ⑤関連死についての説明 ⑥避難所の区分け(眠れる状況をつくる) ⑦段ボールの衝立の感想 ⑧段ボールを敷いていない時と敷いているときの体感の比較 ⑨食事(手の消毒、毛布をたたむ)、メニュー(豚汁、おにぎり、サバ缶、ミネラルウォーター) ⑩健康体操(エコノミークラス症候群の予防)	・3日目からの避難所づくりの体験を通して、男女共同参画の視点(女性)の重要性を知る。
12:10	非常食の試食会への参加	
13:00	ふりかえりのワークショップ *対象者はおいらせ町自主防災組織からの代表メンバーと実行委員 ①グループワーク(3つのグループに分かれる) ②避難所を運営する上での「ルール作り」や「安眠対策」「感染予防」「着替え」「トイレ対応」などについて男女共同参画の視点でとらえた意見を出す ③発表 ④地域防災活動で、どのようにしたら「男女が支え合っ てよい活動ができるか」についてのポイントをあげる ⑤発表	・避難所運営にいかにか男女共同参画の視点が必要かを体験に基づいた議論を通して認識する。

10:00 ～ 13:00	子ども防災ワークショップ/展示/非常食の試食 *会場は深沢保育園、対象はどなたでも	子どもへの防災教育
---------------------	--	-----------

#### 第4回ワークショップ（ふりかえり）＜平成24年10月29日（月）＞

時間	学習内容	ねらい
18:00	ワークショップ（グループワーク） ①下記の5項目から、2つ選んで各グループで討議 ア. 男女共同参画の視点に立つ避難所空間づくりのポイント イ. 男女共同参画の視点に立つ資機材・物資の確保のポイント ウ. 避難所運営委員会における男女共同参画のポイント エ. 避難所運営ルールの検討 オ. その他、避難所において男女共同参画の実践事項について検討 ②発表 ③石井コーディネーターからのコメント	・避難所体験を通して、出た意見をまとめ、「市民力・女性の視点と力を活かす防災活動」にまとめる。
20:30	12月8日の合同学習会のお知らせ／閉会	

#### 合同学習会＜平成24年12月8日（日）＞

会場：アピオあおもり（青森市）

対象：一般県民及び実行委員

時間	学習内容	ねらい
13:00	主催者挨拶	
13:05	「平成24年度男女共同参画地域防災体制づくり事業」実施報告等 ・コーディネーター：小山内世喜子（青森県男女共同参画センター 副館長） ・実施報告者：青森市及びおいらせ町実行委員から各3名 *本事業の説明と経緯及び避難所体験の報告 *各実行委員として得た成果等について	・県民に対して取り組んだ事業を紹介することで、併せて作成した「安心避難所づくり」ハンドブックの市町村での活用を促すことで、防災と男女共同参画についての県民の理解を深めることにつなげる。
14:10	講演会：「みんなでつくる安心して過ごせる避難所～男女共同参画の視点から～」 講師：石井布紀子（NPO法人さくらネット代表理事）	

教材 (例)

男女共同参画地域・防災体制づくり事業 モデル地区・青森市  
第2回ワークショップ 2012.7.2(特)新さくらネット 石井布紀子

1. はじめに(今日の目標と今後の予定)  
 (1)本日の目標  
 ○第2回ワークショップ: アピオあおもりをどのように避難所として活用するか、意見を出し合う

(2)今後の予定  
 ①第3回ワークショップ: 訓練の内容について、意見を出し合い、決定する  
 ②第4回ワークショップ: 訓練を実施。アピオあおもりの活用について、体験をもとに検証する  
 ③第5回ワークショップ: 男女共同参画の視点に立つ避難所開設チェックリストを作成する  
 ④特別シンポジウム : 事業成果を県民に発信する

2. 前回の内容から確認事項  
 ①本日のワークショップでは、災害発生から数時間～数日後に避難所の開設や運営をする場面のことを検討する

②特に、アピオあおもりの活用を通じ、男女共同参画の視点に立つ避難所開設のためのチェックリストをつくる前提で、避難所訓練を含めたワークショップとする

③避難所における関連防止の観点に立ち、また、被災者の生活支援や人権遵守の立場から、災害時要援護者支援全体をふまえた意見を出し合っていた

3. 本日のテーマ  
 ①地域全体の避難所等の配置状況を確認し、アピオあおもりに求められる避難所機能を考える

②アピオあおもりの全舎の避難所活用について考える

③アピオあおもりのホールを、避難所の最も人集まりできる機能とし、そのレイアウトを考える(できれば、乳幼児等子育て層や妊産婦などの特別避難所としてご検討いただきたいです)

4. 本日の時間配分  
 ①18:00～: はじめに、本日と今後のワークショップに関するご説明  
 ②18:20～: 本日のグループ分けとテーマの選定  
 ③18:30～: ディスカッション開始  
 ④19:30～: グループごとの発表(各15分程度)  
 ⑤20:15～: まとめと次回にむけて  
 ⑥20:30 : 終了



男女共同参画の視点で考えた「避難所」です!

**安心して過ごせる避難所体験**  
 ~アピオあおもりの全館が避難所です~

参加費 無料

「女性ご防犯・復興」講師: 石井布紀子さん (県民生活センター代表)

申込先: 県民生活センター(津軽支所) 津軽支所 津軽支所 津軽支所

申込期間: 本研修会 2012年9月8日(土) 13:00~16:00 (申込受付 9月7日) 申込先: 津軽支所

申込先: 津軽支所 津軽支所 津軽支所

女性のための防災講座(コーナー)

平成 24 年 9 月 8 日 (土) 13:00~16:00

会場: 青森県民共同参画センター (防災研修室 4F) 401号 / 青森県 鶴岡市 青森市

男女共同参画地域防災体制づくり事業

男女共同参画の視点で考えた「避難所」です。

ここがポイント!

部署の名前(役割)	説明
1F 避難者の受付 ★「避難者カード」できめ細かい支援につなげる	「避難者カード」に記入しましょう。カードには性別・年齢・障害の種類などを記入します。把握された情報による、きめ細かい支援活動に活用することができます。 *外国人受付も設置しました。
重傷者避難所 ★関連死をなくそう	心身障害者の方や認知症や体力的に衰えのある高齢者の方、一時的な行動支援を必要とする妊産婦や傷病者の方、避難所で体調が悪くなった方を受け入れる部屋です。段ボールベットや褥毛トイ、量などを室内に置き、保健師も常駐しています。
子どもルーム ★おかあさんの手をあける	小さな子どもの一次預かりの場です。被災により、子どもの預け場所もないなど、小さい子どもを持つ母親の負担と不安は大きく増します。そんなとき、お母さんが子どもから離れて、ホッとすると時間をとってあげることも必要です。
赤ちゃんルーム ★安心して授乳もできま	乳幼児とお母さん専用の休憩場所です。乳幼児を抱えるお母さんたちがほかの避難所に戻りたくない授乳や休憩ができ、安心して過ごせる部屋です。
褥毛トイ体験コーナー ★避難所生活を快適に	災害時、停電や水道がストップすることで、トイが使えなくなる場合があります。そんな時、段ボールでできた褥毛式トイがあると便利。凝固剤で固めて、自分の物は自分で処理を! トイも男女別使用に。
2F 避難所 ★「男女共同参画の視点」で快適な避難所設計	防災後4日目。そろそろ、誰もが安心できる避難所づくりをはじめの時期です。避難所の区画整理をはじめ、段ボールなどを使ってパーテーションやテント、更衣室などを作ったり、非常時であっても「尊厳ある生活を営む権利があり、援助を受ける権利」があります。間仕切りでプライバシーの確保をすることは賢沢ではありません。

男女共同参画地域防災体制づくり事業

第4回・避難所運営ワークショップ(おいらせ町)

1. 先日の訓練はおつかれさまでした  
 ○多くの住民のみなさまにご参加いただけました  
 ○男女共同参画の必要性や具体的な知恵について、少しでもご体験頂けました  
 ○振り返りワークショップでは、貴重なご意見をたくさんいただきました

2. 今日のテーマは難しいかも知れませんが、以下のとおりです  
 ① 男女共同参画の視点に立つ避難所空間づくりのポイントを検討  
 ② 男女共同参画の視点に立つ資機材・物資の確保のポイントを検討  
 ③ 避難所運営委員会における男女共同参画のポイントを検討  
 ④ 避難所運営ルールを検討  
 ⑤ その他、避難所において男女共同参画の実践事項を検討

3. ヒントが必要ですか?

4. 成果はリーフレットとなり県民に広く啓発されます

5. すっかりおいらせ町のファンです。ありがとうございました。

## 企画時や実施時に工夫したこと

災害が起きた時、避難所運営の中心となる町内会や自主防災会、女性消防団、防災士、社会福祉協議会。そして、小さな子どもを抱えている母親やPTA関係者等を実行委員とした。事前ワークショップの際は託児も用意した。町内会役員宅には何度か足を運び、趣旨説明を繰り返した。実行委員の選出については、自主防災会からはなるべく女性が入っていただくよう依頼した。行政職員は男女共同参画担当課や危機管理課、健康福祉部など多分野の職員にも入っていただいた。市町との連携については、センターと県の男女共同参画担当課が強みを生かし合いながら取り組んだ。

企画・実施においては「男女共同参画」を前面に出すのではなく、あくまでも安心できる（関連死を少なくする）避難所運営を進めるためには、発災直後の命を守るための訓練も大切ではあるが、避難所生活が長期化すると避難所は生活の一部になるということを理解していただき、これまではほとんど取り組んだことがない発災3日後からの取組をあえて実施するということを繰り返し説明し、理解していただいた。

また、避難所体験を実施するまでに、3回にわたる事前ワークショップを実施し、避難所運営に男女共同参画の視点が必要であることを東日本大震災で起こった事例を紹介することで理解につなげた。課題に対しては主体的に考える場づくりをし、提案してもらった。

## 参加者の声

- 初めは「安心できる避難所」について、イメージがわからなかったが、避難所で約2000人が関連死で亡くなったり、性暴力などにあたりしていること。そして女性がひたすら食事をつくるだけの役割を担っていることを知って、自分がほとんど避難所について勉強不足だったことに気が付いた。
- 実行委員同士、一緒に意見を出し合って、避難所づくりができたことは、大きな連帯をうみ、さらに大きな力となった。そして、何よりも女性の視点、生活の経験者として、避難所について考え、意見を出すことが大事だということがわかった。
- 簡易トイレを体験でき、段ボールパネルの利活用、非常食の種類が多さなど、教えられることが盛りだくさんだった。実際に体験することで理解が深まった。
- 男女共同参画といえども、最初はとても遠慮していたが、回を重ねるごとに、とても充実したワークショップになった。女性の視点を大切にしたい避難所づくりをみんなで考えて、本当に女性の視点が大事だと思った。そして、これまで自分が経験したことを活かしていくことが必要で、遠慮しなくていいんだ、もっと積極的でいいんだと気付かせてくれたワークショップであった。
- 女性であることにもっと自信をもっていいんだと気が付いた。第1回目のワークショップからふりかえりまで、段々と緊張が解けて、メンバーの方々とも自然と会話ができるようになり、意見を出せるようになり、これぞ本当の意味での男女共同参画ではなかったかと思っている。

## 実施後の状況

実行委員の女性が防災士の資格を取得し、今後女性の視点を防災活動に活かしたいと決意した。また、女性消防団所属の実行委員は活動において、今後は自主防災組織と一緒に防災訓練の実施や、女性や乳幼児を抱える家族にとっても安心できる避難所づくり、子ども防災教育なども積極的に実施したいという声があがった。

なお、アピオあおもりが立地する横山町会では、自主防災組織を立ち上げることにし、勉強会を毎月実施している。2月には「防災と男女共同参画」というテーマで実施した。

事前ワークショップや避難所ワークショップ、ふりかえりなど、5回のワークショップを積み重ね、防災エリアマップを見ながら災害時の避難経路を確認し合ったり、女性にやさしい避難所はどうしたらよいかを実行委員が主体的に学び、考え、行動(体験)していったことで満足感が高く、実施後の行動に結び付いたと考える。

また、ワークショップのコーディネーターに自身も阪神淡路大震災で被災し、その後、大規模災害発生時には被災地支援活動の調整役を担い現場を数多く踏んでいる石井布紀子さん（NPO法人さくらネット代表理事）にお願いしたことで、経験に基づいた具体的かつタイムリーな情報提供などにより、実行委員の関心度が高まった。

青森市の危機管理課の担当者が以前に男女共同参画の担当経験があったこと、おいらせ町でも担当職員や防災危機管理専門員が男女共同参画に対する理解度が高く、連携がうまくいった。そういった関係性が実行委員にも良い影響を与えたと感じる。

## 今後の実施に向けた課題

この事業を通して、町内会の方々の防災教育で使用していただくための「安心避難所づくり」ハンドブックとDVD版「避難所運営マニュアル」を製作した（別事業経費）。今後は地域単位での学習会にそれらの道具を活用してもらえよう、働きかけていくことが課題である。

前述のとおり、アピオあおもりが立地する横山町会で実施した学習会の際、参加者の一人が学習会終了後に、「これまで男女共同参画は働く女性に関係することと思っていたが、今日話を聞いて、自分たちの生活の一つ一つに関わりのあることだということがわかった」と話してくれた。まさしく、女性がエンパワーメントするワンステップにつながった。

東日本大震災の被災地東北の女性たちの中には、我慢が美德という慣習（文化）の中で生活していることで、自己肯定感が低い女性たちも多い。男女ともに関心度が高い「防災」というテーマで、これまで女性たちが積み上げてきた社会活動キャリアが役に立つことに気付き、自信につながるような学習の場を提供をしていくことが、論理的に意見が言える女性や行動できる女性リーダーの増加につながり、災害時においても多様な人たちが人間らしい生き方ができる社会になっていくと考えられる。